

# 加賀地蔵(かがじぞう)

登録番号：第8563号

登録年月日：平成12年12月22日

出願者：農林水産省果樹試験場（茨城県つくば市藤本2-1）

育成者：吉田雅夫 京谷英壽 西田光夫 山口正己 小園照雄 垣内典夫 中村ゆり 西村幸一 大宮あけみ 土師 岳

石川祐子 福田博之 田中敬一 三宅正則 木原武士 八重垣英明 鈴木勝征 朝倉利員

来歴：「白加賀」と「地蔵梅」の交雑実生  
育成地：茨城県新治郡千代田町（農林水産省果樹試験場）

## 特性

### ■栽培特性

樹勢は中程度で、樹姿は開張性を示す。枝の発生は中から多で、短果枝の発生と花芽の着生は比較的多い。花は白色単弁である。花粉を有するが、量は極めて少なく実用的には雄性不稔である。

開花期はやや遅く、「南高」より1週間後、「白加賀」の1週間前で、育成地では3月10日頃となる。収穫期は満開後100日余りで、育成地では6月20日過ぎとなり、「南高」より1週間、「白加賀」より数日早く収穫される。

### ■果実特性

「南高」と同程度の大きさになる大玉品種で、果実重は25～30gとなる。果形は円形で、片肉果は少なく玉揃いは良好である。果皮は地色が淡緑色で比較的容易に着色する。ヤニ果の発生は少ない。核は粘核で、大きさは2～3gとなる。

滴定酸含量は4.5～5.6%で「南高」と同程度である。果肉が厚く肉質は滑らかで、梅干し製品の品質は優れている。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

病虫害抵抗性は他の品種と比較して特に大きな差がないので、黒星病、かいよう病、アブラムシ類など主要な病害虫については適切に防除を行う。

自家結実性がないので、受粉樹の混植が必要になる。この場合、本品種は実用的には雄性不稔なので、この点を考慮して受粉樹用の品種を選択する。

果実肥大が良好で結実性も優れているが、樹勢が衰弱すると結果部位の確保が困難になるので、結果枝の切り返しや更新を行い樹勢の維持を図るよう努める。

### ■地域適応性

東北地方から九州までのウメ産地で栽培可能である。果実肥大が良好で熟期がやや早く、ヤニ果の発生が少ないため、青梅用としても漬け梅用としても優れた品種であり、今後の普及が期待される。

(土師 岳)